



岐阜支社

〒500-8875

岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地

058 (265) 0191

Fax (262) 8706

(販売) (265) 0265

(広告) (266) 4791

(事業) (265) 0267

多治見支局

0572 (22) 3121

Fax (23) 5331

大垣支局

0584 (78) 2030

Fax (74) 6460

高山支局

0577 (32) 0350

Fax (34) 5215

関支局 0575 (22) 3234

Fax (24) 3939

ご意見は読者センターへ

052 (221) 0800

Fax (221) 0819

Eメール

center@chunichi.co.jp

掲載写真を購入希望の方は

最寄りの中日新聞販売店へ

脳を創る読書 想像力高めて

東大大学院・酒井教授 多治見で講演

東京大大学院総合文化研究科の酒井邦嘉教授(59)による講演会「読書は脳を創る」(中日新聞社主催、多治見市教育委員会など共催)が22日、多治見市十九田町のバロー文化ホールであり、地元の住民ら約300人が紙の本や新聞を読むことが脳にもたらす効果やAI(人工知能)の危険性について学んだ。講演で酒井教授が述べた内容を紹介する。(吉本章紀)

■紙とネット

本とは、辞書によると、文書や絵の紙の束を厚みが出るぐらい重ねてとじてきちんとした表紙をつけたもの。ページは、振り返って繰り返し読む手掛かりになるし、製本された本のカラーの色、大きさが違って、そこにあるだけで自然と手が伸びる。新聞がそうだが一覧性に優れていて、ネットのようにキーワードを入手しなくても、脳が勝手に自分でキーワードを探し出す。これはすごいこと。

新聞の一覧性「優れている」



読書と脳の関係について語る酒井教授

う意味は三つ。筆者の意図といった行間を読む能力などの想像力。これは読書の楽しみの一つでもある。そして、思索にふける。自分で考えるということ。もう一つが、自分のレベルで分からないものを読んで分かるのと挑戦することを積み重ねていくと、自然と脳が変化して成長する。これは日常的な生涯学習にもなる。すごい本に出合えて、物の見方が変わるとしたら、それは皆さんの脳が変わった証拠でもある。

本とネットの最大の違いは、誰が書いたか分かる「記名」、審査を経て発行される「審査」、保存されてちゃんと読める状態になっている「保存」の有無。この三つがそろったかは非常に大事。

■読書と脳

脳への入力となる「聞く・読む」において、動画などのように過度に情報が入っていると、自分で想像して補うことをしなくなってしまう。

■AIの危険性

AIを使つるのは、桁違いにリスクをもたらす可能性がある。生成AIと言われるが、合成しているだけで「合成AI」。対話型ではなく、対話風と言わなければいけない。なぜな

SNS(交流サイト)も誰が書いているか分からない。AIが書いているかもしれない。書き手と読み手の最低限の人間関係、信頼関係が喪失していついて解決する方法はAIを規制し、読書を取り戻すという2点に尽きる。



酒井教授が読書と脳の関係について語った講演「読書は脳を創る」=いずれも多治見市十九田町のバロー文化ホールで